

令和8年度宇部市公共交通協議会 第2回会議 会議録

日 時：令和8年（2026年）6月23日（火） 10:00～11:25

場 所：宇部市役所 市民交流棟 2階 会議室D・E

出席者：17名（欠席者1名）

榊原会長（国立大学法人山口大学大学院）

三戸副会長（宇部市自治会連合会）

鈴木委員（国立大学法人山口大学大学院）

磯中委員（宇部市交通局）

綿部委員（船木鉄道株式会社）

芳野委員（宇部山電タクシー株式会社）

秋野委員（宇部第一交通株式会社）

西嶋委員（西日本旅客鉄道株式会社）

寺崎委員（中国運輸局山口運輸支局）

大野委員（中国地方整備局山口河川国道事務所宇部国道維持出張所）

山本委員（山口県宇部土木建築事務所）

平田委員（山口県宇部警察署）

吉富委員（宇部交通労働組合）

吉森委員（山口県観光スポーツ文化庁交通政策課）代理 田中様

齋藤委員（宇部商工会議所）

石崎委員（社会福祉法人宇部市社会福祉協議会）

渡辺委員（宇部市都市政策部）

事務局：3名

交通政策課 飯田課長、和田副課長、坂倉主任

次 第：1 会長あいさつ

2 議事

(1) 宇部市地域公共交通計画の目標に対する達成度の評価と課題

(2) コミュニティタクシー（西宇部地区、東岐波地区）運行内容の変更

(3) 地域公共交通確保維持事業に係る計画認定申請（地域間幹線系統補助、地域内フィーダー系統補助）

(4) 宇部市地域公共交通計画の改定

(5) 令和7年度収支決算及び監査報告

その他（報告）

・山口県地域公共交通ビジョンの策定について

3 その他

1 会長あいさつ

2 議事

(1) 宇部市地域公共交通計画の目標に対する達成度の評価と課題

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

計画最終年が近づいており、今回の評価結果が、概ね現計画の結果を示すものとなる。目標達成を目指すべきであるが、未達成の指標については、その原因を把握し、次期計画のKPI設定の際に考慮する必要がある。

今後はさらなる人口減少や物価高の影響を軽視できない状況となり、人員確保の課題もある。現計画で達成できていない要因を分析することが重要である。

(2) コミュニティタクシー（西宇部地区、東岐波地区）運行内容の変更 [承認]

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【委員】

西宇部地区の運行エリア拡大によるルート変更に伴い、宇部駅付近に乗降場所を移設するとのことであった。詳細な設置位置は不明であるが、乗降場所を設置する際には、地元警察への確認や協議を行い、安全性について確認を行う必要がある。

【事務局】

宇部駅北側の市道付近への乗降場所の移設における警察への確認は、本日の協議会で承認を得たうえで実施する予定である。迫条西宇部ニュータウン内の乗降場所の新設箇所については、自治会です承を得ており、団地内のため、基本的には地元住民が利用する道路ではあるが、今後、警察への確認を実施したい。

【会長】

安全面の確認は十分に行ってもらいたい。

西宇部地区について、現状よりも西側を広くカバーする運行となるため、所要時間が8分長くなるとのことだが、既存の利用者に所要時間が延びることへの承諾を得ているということによいか。

【事務局】

地元運営協議会で利用者の声を聞き、病院やスーパーの利用に支障がないよう、目的地での滞在時間を確保できるダイヤ設定を行っている。

【会長】

朝の時間を早めに設定することで、滞在時間を確保していると理解した。

運営協議会でも広報されると思うが、運行エリアを拡大する地域でも積極的に利用してもらいたい。

本議案は、運賃の設定も必要であるが、本日、先に開催した運賃協議部会で承認を得ている。その他の運行内容について、承認としてよろしいか。

異議なし。

(3) 地域公共交通確保維持事業に係る計画認定申請（地域間幹線系統補助、地域内フィーダー系統補助） [承認]

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

本議案については承認とし、軽微な修正が発生した際は、事務局に一任するということでよろしいか。

異議なし。

(4) 宇部市地域公共交通計画の改定

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

11月末までに素案の取りまとめ、年明けにパブリック・コメントを実施すること、非常にタイトなスケジュールで進める必要がある。本日が、計画改定に関する1回目の協議会であるが、各委員から計画改定に向けて、それぞれの立場からご意見をいただきたい。

【委員】

バス事業の経営は厳しい状況にあるが、公共交通を維持していくため、バス事業が担う対象やエリアを絞るなどメリハリが必要なのではないかと考えている。みんなが共倒れしないよう、宇部市の特徴を持った計画とすべきである。

【会長】

バス事業が担う役割、その他のサービスが担う役割を分担して考えていければよいと思う。

【委員】

船鉄バスが運行する路線のうち、宇部市内に関連する路線は限定的であるが、主要幹線を担う路線の維持を行うことは重要であると考えている。

【会長】

個々の事業者で努力していただく必要もあるが、西部には交通局と船鉄バスの運行が重複するエリアもあるため、計画の中で検討していくべきだと考えている。

【委員】

西宇部地区、厚南地区、藤山地区のコミュニティタクシーを運行しているが、乗車のない区間や乗車人数が増えない路線もあり、厳しい状況である。

西宇部地区では先ほど説明があったように、10月から運行エリアが拡大し、新しい停留所の設置に期待の声も挙がっており、利用が増えることを期待している。

【委員】

桃山地域、東岐波地区、原地区でコミュニティタクシーを運行している。原地区は想いの熱い地区で、自治会長が定期的に集まり意見を出し合っている。他地区でも住民の方からの意見を把握するため、定期的な会議やミーティングなどの開催が必要だと考えており、市からも投げかけを行ってほしい。

【会長】

西宇部地区が一番初めにコミュニティタクシーの運行を開始した地区で、15年近くの歴史がある。コミュニティタクシー等の地域内交通は、年間1万人程度の利用があるなど、地域の方に定着している。

一方で、運営側も利用者側も高齢化が進んでいるなど、地域差も生じている。交

通局からの話にもあったように、ライドシェアなども含め移動手段を選択しながら、どのような地区でどのモードを使っていくか、コミュニティタクシーを運行する最低限の利用実績を設定するなど、あり方も考えていく必要がある。

コミュニティタクシー運行エリアの方も、ワークショップに参加いただき、ご意見をいただきたい。

【委員】

鉄道だけでなく、バスやタクシーなどのあらゆる交通機関が連携し、時代の変化を捉え、まちづくりに資する計画ができるとよい。

【会長】

鉄道に限らず、中心市街地等のまちづくりとの連携を含めた検討、計画策定を進めていければと思う。

【委員】

免許返納の話題として、人口減少、高齢化、過疎化など様々な問題があるなか、警察の立場としては高齢者の事故が多いという課題を抱えており、免許返納の促進を図っている。

公共交通手段は重要であるが、路線バスの経営は厳しく、コミュニティタクシーやデマンドバスなどのサービスの必要性も高まっていると感じている。警察としては、免許返納者などに利用できる公共交通を紹介するとともに、警察としての取組についても検討していきたい。

【会長】

宇部市では、高齢者優待なども実施しているため、それらの取組との連携も考えられる。

【委員】

現場からの意見としては、乗務員不足が一番の問題である。運転体験会なども実施しているが、交通局においては定員70人に対してマイナス5人となっており、運転手の負担も大きい。交通政策としても、乗務員確保に向けた様々な案を出してもらい実施してもらっているが、更に重点を置いて進めてもらいたい。

【会長】

運転手がいないと何もできない。宇部市においては、2年前にサービス水準のレベルに応じて、どの程度の人材や経費が必要かという検討を行った。

担い手確保においては、待遇の向上が重要であり、経費を節減して実現できるものではないため、そのことを踏まえたKPIを設定する必要がある。収支を考えるうえでもこの視点は必要である。

【委員】

社会福祉に携わる中で、地域の方々と関わる機会が多いが、自治会のサロンに行けないという方もいる。また、買い物をすると荷物が多く移動が難しい、乗り継ぎが難しいなどの意見を聞いている。

細かい部分まで示すのは難しいと思うが、どこまでを地域交通が担っていくのか、地域交通がどのような役割を果たすのか方向性を示せるとよい。そのためにも、庁内会議においても、福祉や市民活動部門の方にも入ってもらい、議論してもらいた

い。小野地区ではデマンドバスの利用体験を実施したことで、利用者が増えた実績があるため、他地域でも参考にしてもらいたい。

【会長】

交通政策として、福祉分野との連携が重要であるが、その境界あたりでの必要性が増していると感じている。社会福祉協議会の方にも入ってもらい連携できるとよい。国としても縦割りでなく、様々な可能性を含めた取組が進められている。

【委員】

市内には新しい団地が造成されているが、30年経つと現在の西宇部地区のニュータウンのように高齢化が進むこととなり、いずれコミュニティタクシーなどの移動手段が必要となる時代がくる。最近では、学校やスーパーの近くなどに住宅が増えているが、際波台など山を切り開き造成した団地などではコミュニティタクシーが必要となってくるため、想定したうえで検討してもらいたい。コミュニティタクシー運行エリアでも運行していることを知らない人がいるため、周知も必要である。

【会長】

いわゆるオールドニュータウンは、各地でも問題となっている。かつて、住宅を持った方が高齢となり、対応が求められている。コミュニティタクシーも導入して時間が経っているため、今後どのように運用していくのか、方向性についても検討が必要な時期が来ている。

【委員】

地域公共交通計画はまちづくりと連携し、一体的に計画する必要がある。宇部市では、令和8年3月に都市計画マスタープラン・立地適正化計画が策定されており、住環境の整備や宇部空港の拠点化などが示されていることを踏まえ、まちづくりの部局とも調整しながら、策定を進める必要がある。また、どのようなデータを用いて分析していくかについても調整してもらいたい。

【会長】

具体の計画としては、ウォーカブルの取組も深く関連し、ウォーカブルエリア内でのバス停設置や、中心市街地には公共交通で来やすい環境整備なども進められている。中心市街地へは一定数の公共交通での来訪もあり、別途アンケートも実施されている。

【委員】

直近では運転手不足などの様々な課題があるなか、皆様のご尽力によって、現在のサービスが維持されている。長期的な視点も重要であり、運転手確保、待遇改善など、若者にとっても魅力的な業界となるよう、国全体での課題でもあるが、市としても取り組んでももらいたい。

まちづくり、福祉との連携については、総合計画で分野横断的な視点での取組に触れる必要がある。総合計画の各施策別の満足度・重要度が示されているが、公共交通は重要度が高く、満足度が低い結果となっており、現状維持では市民には満足してもらえず、充実させることには共感が得られると考えられる。

市街地だけでなく、住んでいる場所で公共交通をどう便利にするのか、福祉や買い物環境などの暮らし方と一緒に考えなければ、公共交通だけで考えると、全てデ

マンドになってしまう。トップダウンでなく、生活者の声を挙げていくことが重要である。

ワークショップでも、サービス水準を提示して、こういった暮らし方ができそうかという点も含めて、掘り下げて聞いてもらい、充実した計画としてもらいたい。

【会長】

皆様から発言いただいた様々な意見に賛同する。1点異なる視点として、宇部市の公共交通体系の利便性向上を考えるうえで、山口市や山陽小野田市などの隣接市との流動も考慮する必要がある。県立高校の再編の動きもあり、山口大学や宇部フロンティア大学、山口東京理科大学などには市域を越えた通学流動がある。

県のマスタープラン策定の話もあるが、市レベルでも隣接市との連携に触れておくことも重要である。本来であれば、隣接市と一緒に考えるべきであるが、計画改定のタイミングが異なるため、難しい部分もあるが、連携して検討してもらいたい。

意見票も付けているため、持ち帰り、気づきがあれば、個別で意見をもらいたい。また、ワークショップへの参加、ワーキンググループへの参加についても協力いただきたい。

(5) 令和7年度収支決算及び監査報告 [承認]

事務局から、資料について説明を行い、監査委員である船木鉄道の綿部委員から監査結果報告が行われた。意見等特になし。承認。

その他（報告）

・山口県地域公共交通ビジョンの策定について

山口県観光スポーツ文化部交通政策課から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【委員】

各市町の公共交通協議会のデータをA Iに入れてみてはどうか。

【山口県】

利用者データや利用ニーズを含め、様々な分析ができるような詳細なものを考えている。

【会長】

交通系ICカードデータとの連携など、詳細データを入手できる環境を整える第一歩となると期待している。

宇部市の計画との関連では、地域間幹線の部分になると思うが、宇部市の計画を先行して策定するため、県の計画でフォローする部分など情報提供してもらいながら、連携して進めてもらいたい。

3 その他

事務局から、次回協議会（10月開催予定）について案内した。意見等特になし。

以上